

(別表)

## 1 妊娠中の症状等に対応する措置

	症 状 等	措 置 内 容
つ  わ  り	妊娠初期に現れる食欲不振、吐き気、胃の不快感、胃痛、嘔吐などの症状。一般に妊娠12週（第4月）頃に自然に消失するケースが多い。	悪臭がする、換気が悪い、高温多湿などのつわり症状を増悪させる環境における作業の制限 体重が1週間に2kg前後減少する場合、尿中ケトン体が陽性の場合、妊娠12週を過ぎても症状が軽快せずに残る場合 <b>勤務時間の短縮</b>
妊 娠 悪 阻	つわりの強いもので食物摂取が不能になり、胃液血液等を混じた嘔吐が激しく全身の栄養状態が悪化する。脳症状（頭痛、軽い意識障害、めまいなど）や肝機能障害が現れる場合がある。	1週間に3～4kgの体重減少のある場合、尿中ケトン体が（2+）以上を示す場合、脳症状や肝機能障害（GOT、GPTが100IU/ℓ以上）を示す場合 <b>休業（入院加療）</b>
妊 婦 貧 血	妊娠中の血液量の増加により、血液中の赤血球数又は血色素量が相対的に減少するもので、顔色が悪い（蒼白い）、動悸、息切れ、立ちくらみ、脱力感などの症状が現れる場合がある。	血色素量が9g/dℓ以上11g/dℓ未満の場合 <b>負担の大きい作業の制限又は勤務時間の短縮</b> 血色素量が9g/dℓ未満の場合 <b>休業（自宅療養）</b>
子 宮 内 胎 児 発 育 遅 延	子宮内において胎児の発育が遅れている状態。	胎児の推定体重が正常の発育曲線の正常限界より小さい場合 <b>負担の大きい作業の制限、勤務時間の短縮又は休業（自宅療養又は入院加療）</b>
切 迫 流 産 (妊娠22週未満)	流産しかかっている状態。出血、褐色のおりもの、下腹部の痛み、下腹部の張りが徴候となる。	<b>休業（自宅療養又は入院加療）</b> ……注) 1
切 迫 早 産 (妊娠22週以降)	早産しかかっている状態。出血、下腹部の痛み、下腹部の張り（周期的又は持続するもので、安静にしても治らないもの）、破水感、自覚する胎動の減少などが徴候となる。	<b>休業（自宅療養又は入院加療）</b> ……注) 1
妊 娠 浮 腫 (むくみ)	起床時などに、下肢、上肢、顔面などに次のようなむくみが認められ、かつ1週間に500g以上の体重増加がある場合。妊娠後半期（妊娠20週以降）に生じやすい。 〔 下肢：すねのあたりを指で押すと陥没する。 上肢：手指のこわばり。はれぼったい。指輪がきつくなる。 顔面：額を指で押すと陥没する。まぶたがはれぼったい。〕	軽症（浮腫が全身に及ばない）の場合 <b>負担の大きい作業、長時間にわたる立作業、同一姿勢を強制される作業の制限又は勤務時間の短縮</b> 重症（浮腫が全身に及ぶ）の場合 <b>休業（入院加療）</b>
たん 蛋 白 尿 ……注) 2	尿中に蛋白が現れるもので、ペーパーテストにより検査する場合は連続して2回以上陽性の場合を、24時間尿で定量した場合は、30mg/dℓ以上を、蛋白尿陽性という。	軽症（300mg/日以上、2g/日未満）の場合 <b>負担の大きい作業、ストレス・緊張を多く感じる作業の制限又は勤務時間の短縮</b> 重症（2g/dℓ以上）の場合 <b>休業（入院加療）</b>
高 血 圧 ……注) 2	自覚症状として、頭痛、耳鳴り、ほてりなどが生ずることもあるが、自覚されないことも多いので、定期健診時、職場、家庭等で血圧を測定することが必要である。高血圧が認められたら数時間安静後再検して確認する。	軽症（最高血圧140mmHg以上160mmHg未満又は最低血圧90mmHg以上110mmHg未満）の場合 <b>負担の大きい作業、ストレス・緊張を多く感じる作業の制限又は勤務時間の短縮</b> 重症（最高血圧160mmHg以上又は最低血圧110mmHg以上）の場合 <b>休業（入院加療）</b>